小川房人（おがわ・ふさと）先生を悼む

関西自然保護機構理事，大阪市立大学大学院理学研究科理学部　山　倉　拓　夫



在りし日の小川房人先生（小川徳子氏所蔵）.

関西自然保護機構が創立された1978年から1995年までは理事を，1996年からは副会長をお努めになり，機構の発展にご尽力された，大阪市立大学名誉教授・小川房人先生は，2006年（平成18年）２月３日，薬石むなしくご逝去されました（享年79歳）。先生のご他界を，関西自然保護機構会員の皆様にご報告致しますと共に，慎んで先生のご冥福をお祈り致します。

先生は1927年（昭和２年）１月17日，広島県福山市でお生まれになり，県立福山誠之館旧制中学校をご卒業後，京都大学に進学されました。1951年３月に同大学農学部農林生物学科を卒業後，同年10月に新設間もない大阪市立大学理工学部助手として赴任されました。赴任前には京都大学大学院農学研究科への入学試験に合格されており，「大学院へも行ってみたかった。」と，後年洩らされたことがありました。大阪市立大学理工学部助手就任後の1959年４月には，理工学部分離のための組織替えにより，理学部助手に所属変更となりました。1963年４月に理学部生物学科講師，1971年４月に理学部生物学科助教授，1974年10月に大阪市立大学理学部附属植物園教授に昇任されました。教授昇任後は定年（63歳）によるご退官の日（1990年３月）まで，15年に渡って植物園長をお勤めになりました。また，1986年４月から1991年３月まで，大阪市立自然史博物館館長を兼務されました。ご退官後は大阪市立自然史博物館顧問，大阪市環境審議会委員をお勤めになりました。

先生のご活動を振り返りますと，若かった頃には実験植物個体群，森林生態系，熱帯林の純学術研究に心血を注がれ，植物園長となられてからは荒廃した園地に照葉樹林を復活させる修復生態学の研究と組織の管理運営に，ご退官後は地域の環境保全と自然保護の社会活動に，研究活動の重点をシフトされていかれたように思われます。これに付随して先生が取り組まれた教育活動も，大学における植物生態学の教育から，環境保全と自然保護のための社会教育，啓蒙教育へと質的に変化して行ったと言えましょう。死の直前までその任をお勤めになったと思われますＮＰＯ法人自然と

緑によるプロジェクト「自然大学」学長，ＮＰＯ法人緑の地球ネットワーク顧問として参加された黄土高原の緑化，大阪市環境審議会委員としての取り組みなどは，先生の晩年のご活躍を端的に表すものであります。これらのご活動は，関西自然保護機構を始めとする諸団体，および諸機関の活動を支える力となったと同時に，先生の思索をより豊かに育んだものと思われます。

断片的とはいえ，関西自然保護機構会誌に先生の思索の足跡が残されています（引用文献参照）。会誌の巻頭言として書かれた短い文章にも，先生でなければ表現できない至言に出会うことができます。ご逝去の10日ほど前であったと思いますが，入院されていた近畿大学附属病院へ先生をお訪ねしました。先生はお元気そうでした。関西自然保護機構会誌に寄稿するため，書きかけの文章があることをお伺いしました。現在，先生の奥様は遺品の整理をなさっている最中です。そのうちに出てくると期待していた，書きかけとおっしゃっていた文章が，まだ出てきません。ワープロのフロッピーデスクに入っているはずと思っているのですが，先生，いったい何を書こうとなさっていたのですか。

引用文献

小川房人．1980．二次林の生産力．関西自然保護機構会報，4：17－21.

升方ひろみ・小川房人．1980．二次林と大気汚染物質．関西自然保護機構会報，4：23－28.

小川房人．1989．自然保護と危険察知能力．関西自然保護機構会報，18：1－2.

小川房人．1990．自然保護から見たゴルフ場の問題点．関西自然保護機構会報，12：3－8.

小川房人．1995．都市における自然．関西自然保護機構会報，17（2）：119－124.

小川房人．2000．現存人類か未来人類か．関西自然保護機構会誌，22（2）：89－90.

小川房人．2005．日本の四季（世界の自然から日本の自然を考える１）．関西自然保護機構会誌，27（2）：79－84.